

大阪湾フェニックス計画の概要

平成21年11月4日

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT



フェニックス計画の背景

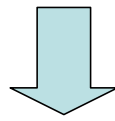
- 昭和40年代から50年代は、高度経済成長による大量生産、大量消費時代の真ただ中であり、首都圏、近畿圏等ではゴミの大量化、悪質化が、すさまじい勢いで進んでいた。
- 大都市圏地域では、土地が高密度に利用されているため、最終処分場のための用地を確保することは極めて困難な状況にあり、自治体はあふれるごみの処理対策に頭を悩ませていた。

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT



フェニックス計画の背景

- 一方、大阪湾圏域の各港湾（神戸港、大阪港、堺泉北港、尼崎西宮芦屋港）においては、背後の都市の健全な発展と活動を支えるため、港湾機能及び都市機能の整備拡充を図る必要から、埋立地による新たな用地の確保が要請されていた。



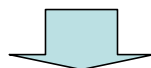
廃棄物の海面埋立による広域的処理の問題がクローズアップ



OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

フェニックス計画の背景

- 昭和51年8月 運輸省、広域廃棄物埋立護岸整備構想発表
- 昭和52年8月 厚生省、広域最終処理場計画発表
- 昭和53年5月 「首都圏廃棄物対策協議会」
「近畿圏廃棄物対策協議会」の結成
長期・安定的に広域の廃棄物を処理するといった観点から海面に最終処分場を確保し、埋立てた土地を活用する「フェニックス計画」の提唱



- 昭和56年6月 広域臨海環境整備センター法制定
- 昭和57年3月 大阪湾広域臨海環境整備センター設立

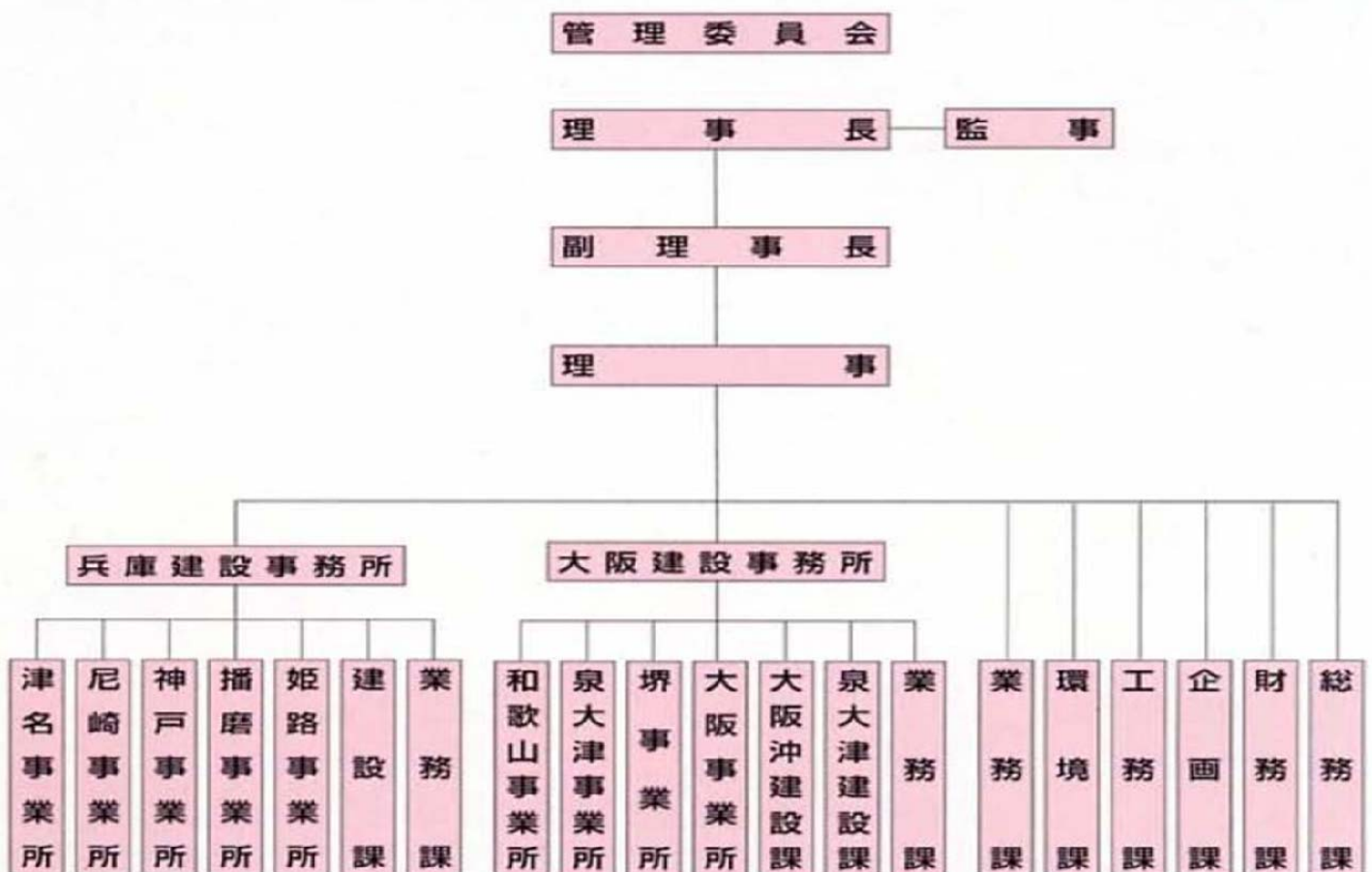
OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT



大阪湾フェニックスセンターの概要

- 1 名称／大阪湾広域臨海環境整備センター
- 2 根拠法律／広域臨海環境整備センター法
(昭和56年法律第76号)
- 3 設立／昭和57年(1982年)3月1日
- 4 理事長／五百蔵俊彦(兵庫県副知事)
- 5 所在地／大阪市北区中之島二丁目2番2号
ニチメンビルディング9階
- 6 受入対象区域／近畿2府4県175市町村
- 7 広域処理場整備対象港湾／4港湾
- 8 業務／①港湾管理者の委託を受けて次の業務を行う。
 - 廃棄物埋立護岸の建設及び改良、維持その他の管理
 - 廃棄物埋立護岸における廃棄物による海面埋立てにより行う土地の造成
 ②地方公共団体の委託を受けて次の業務を行う。
 - 一般廃棄物等の最終処分場の建設及び改良、維持その他の管理
 - 一般廃棄物等による海面埋立て
 - 前に掲げる施設の円滑かつ効率的な運営を確保するため搬入施設等の建設及び改良、維持その他の管理
- 9 資本金／1億3,690万円
- 10 出資団体／[地方公共団体(181団体)]
うち府県(6団体)
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
うち市町村(175団体)
大津市、京都市、大阪市、神戸市、奈良市、和歌山市ほか
[港湾管理者(4団体)]
大阪港港湾管理者、堺泉北港港湾管理者、神戸港港湾管理者、尼崎西宮芦屋港港湾管理者
- 11 管理委員会／[委員長]
大阪府知事
[委員]
滋賀県知事、京都府知事、兵庫県知事、奈良県知事、和歌山県知事、大阪市長、神戸市長

組 織



大阪湾フェニックス計画について

大阪湾フェニックス計画は、近畿の自治体や港湾管理者が出資する事業であり、近畿圏から発生する廃棄物の処分を行っています。

フェニックス計画には3つの大きな目的があります。

1. 近畿の2府4県の175市町村の家庭や工場から出てくるごみ、工事現場などから出てくる土砂などを**適正に処分**し、大阪湾圏域の**生活環境の保全**を図ること。
2. 港湾の秩序ある整備により、**港湾機能の再編・拡充**をはかること。
3. 新たな埋立地を活用し、**地域の均衡ある発展**に寄与すること。

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

廃棄物を受け入れる区域

2府4県
175市町村

※色分けは管理型廃棄物の基地ごとの受入区域を示しています。
(泉大津基地は安定型廃棄物、陸上残土を受け入れています。)

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT



OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

廃棄物の埋立処分場及び容量

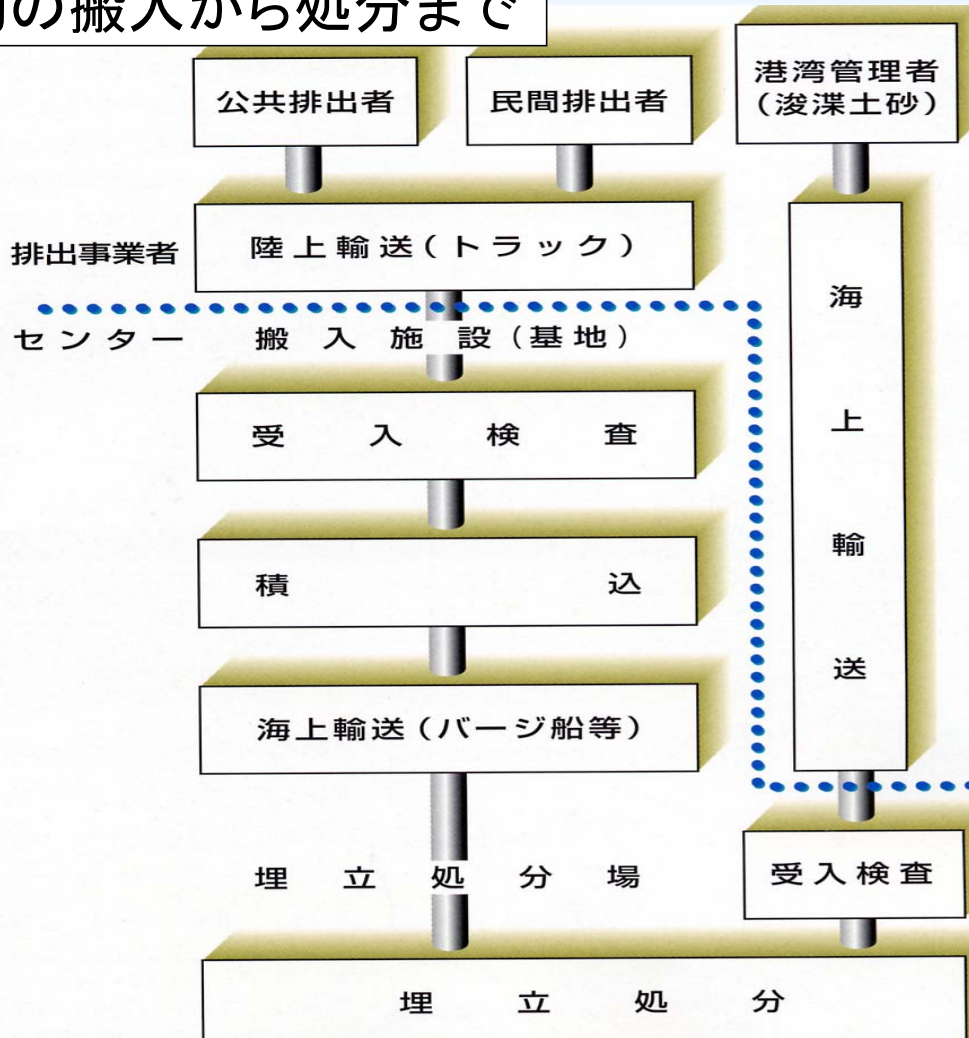
埋立処分場	位 置	面 積	埋立容量 (単位: 万 ³ m)				
			一 般 廃棄物	産業廃棄物 災害廃棄物	陸上残土	浚渫土砂	計
尼崎沖 埋立処分場	尼崎西宮芦屋港 尼崎市東海岸町地先	113ha	220	290	630	460	1,600
泉大津沖 埋立処分場	堺泉北港 泉大津市夕凧町地先	203ha	390	720	1,270	720	3,100
神戸沖 埋立処分場	神戸港 神戸市東灘区向洋町地先	88ha	800	400	300	0	1,500
大阪沖 埋立処分場 (建設中)	大阪港 大阪市此花区北港緑地地先	95ha	770	350	280	0	1,400
合 計		499ha	2,180	1,760	2,480	1,180	7,600



- 大阪、堺、泉大津、和歌山、姫路、播磨、神戸、尼崎、津名の9つの基地

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

廃棄物の搬入から処分まで



OSAKA BAY SIDE

受付ゲート

受付ゲートで、契約された廃棄物の照合と目視検査を行い、計量します。



積込

受入検査を行った廃棄物は、投入ステージから、ダンピングにより運搬船へ積み込みます。



埋立処分

受け入れた廃棄物は各基地から処分場へ船で運搬し、処分場で揚陸を行い、埋立処分します。



大阪基地



運搬船



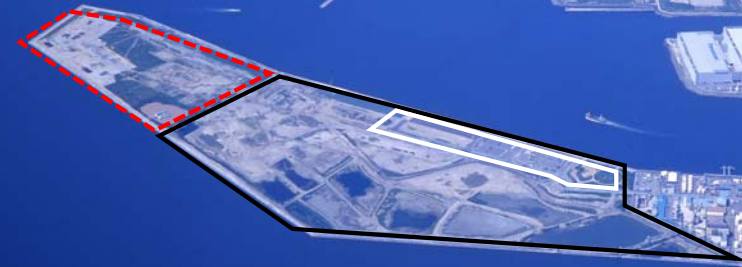
OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

埋立状況



OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

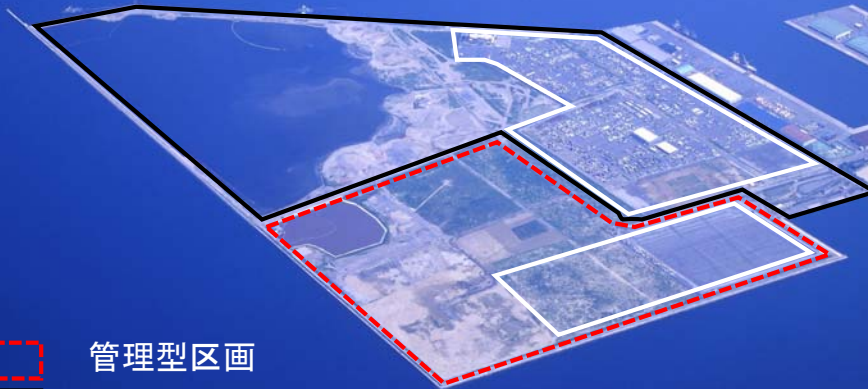
尼崎沖埋立処分場



- 管理型区画
- 安定型区画
- 埋立竣功区画

	計画量(千m3)	埋立量(千m3)	進捗率(%)
管理型区画	4,782	4,412	92.3
安定型区画	11,000	10,668	97.0
全 体	15,782	15,080	95.6

泉大津沖埋立処分場



- 管理型区画
- 安定型区画
- 埋立竣功区画

	計画量(千m3)	埋立量(千m3)	進捗率(%)
管理型区画	10,800	10,225	94.7
安定型区画	20,000	15,868	79.3
全 体	30,800	26,093	84.7

神戸沖埋立処分場



	計画量(千m3)	埋立量(千m3)	進捗率(%)
管理型区画	15,000	8,238	54.9

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

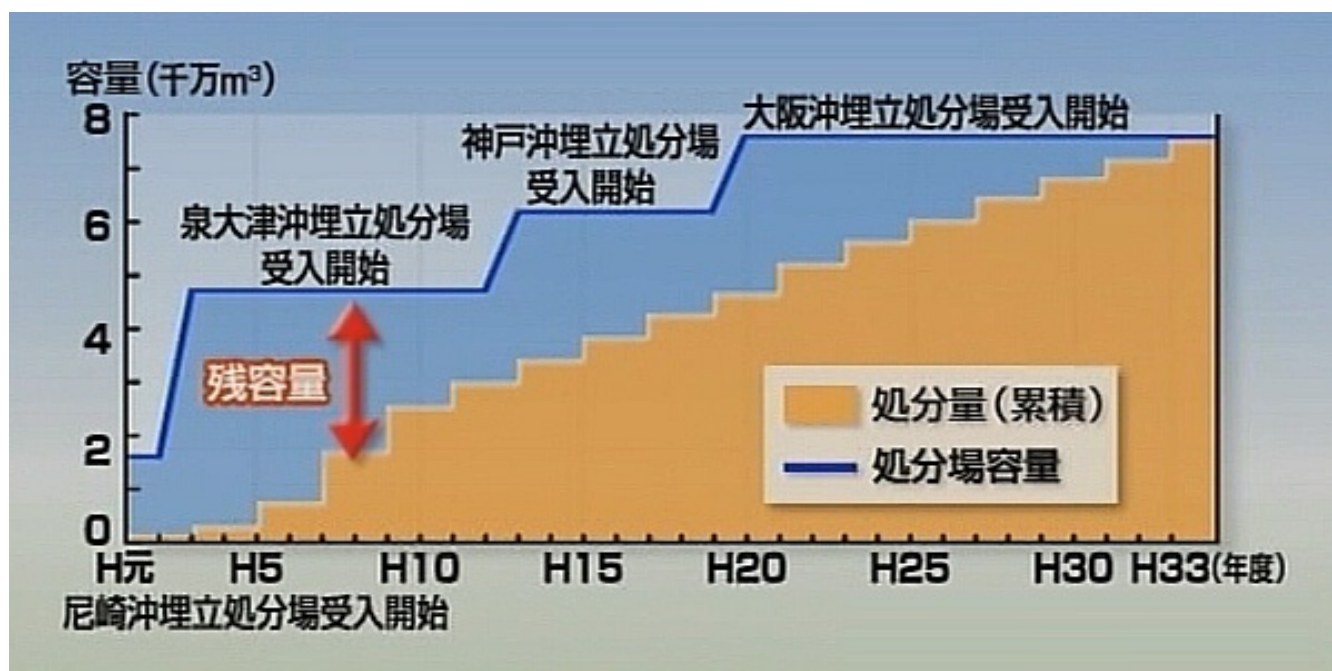
大阪沖埋立処分場



	計画量(千m3)	埋立量(千m3)	進捗率(%)
管理型区画	14,000	0	0.0

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

埋立処分容量と埋立処分量



OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

搬入基地での環境保全対策

環境保全設備

1 拡散防止シート

投入ステージ床下からバージ船艙の周囲に可動式のシートを巡らし、廃棄物搬入車両からバージに投入された廃棄物が海上に飛散するのを防ぐと共に、発生した粉じんが大気中に拡散するのを防止します。

シートの長さは、廃棄物の載荷重や潮の干満によるバージ高さの変動に自動的に追従します。



拡散防止シート

2 集じん設備

投入口床下のエアーカーテンにより、廃棄物投入時に発生する粉じんがステージ上に拡散するのを遮断します。

さらに、ステージ床上に粉じんが拡散ないように集じんラインを設け、粉じんを吸い込み、投入ステージを良好な作業環境に保ちます。



集じん設備



展開検査設備

OSAKA BAY SIDE PHOENIX PROJECT

フェニックス計画における環境保全対策

排水処理施設

埋立等により生じた管理型区画内の余水を、処理して海へ放流します。

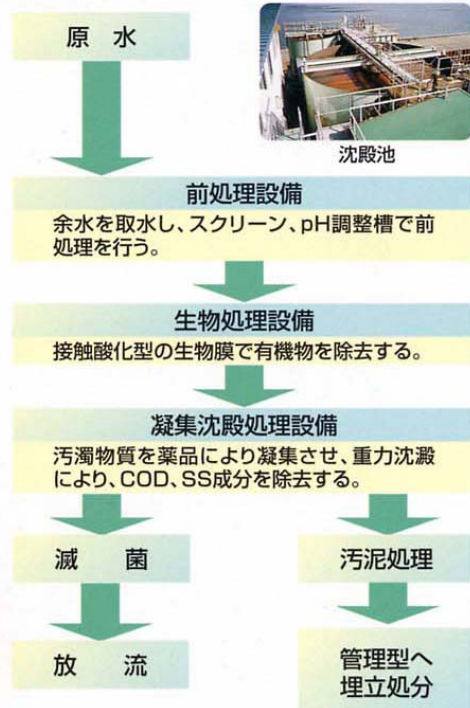


排水処理施設

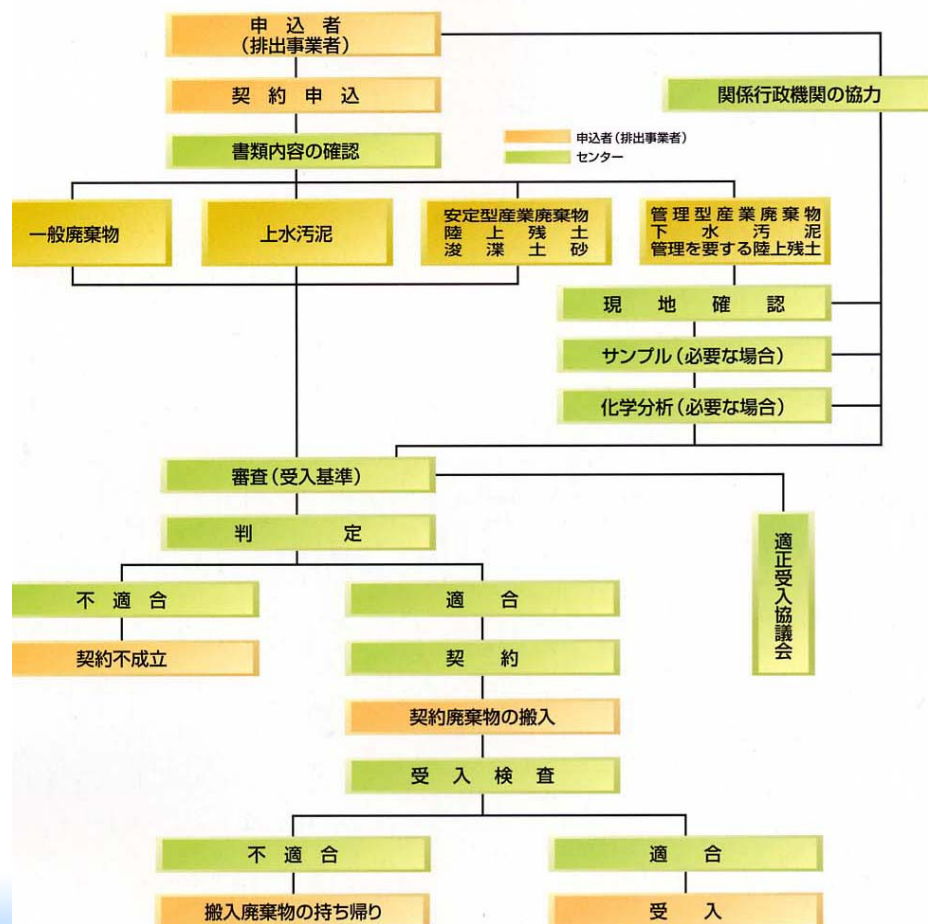


排水処理施設 中央監視操作室

排水処理のしくみ



廃棄物の搬入にあたって



おわりに

●今、私たちができることは、埋立処分場をできるだけ長く使えるよう3Rなどを進め、廃棄物を減らすなど循環型社会の形成を進めていくことが重要です。

●センターとしてもゴミの減量化などの環境啓発活動を進めていくとともに、埋立処分場周辺海域の環境改善や環境創造に取り組んでいきます。

●今後の新たな処分場計画について、国や関係自治体とともに検討をはじめていきます。

